

## 平成 28 年度島根県学力調査の概要及び分析について

浜田市教育委員会

平成 28 年度島根県学力調査について島根県及び浜田市の調査結果及び分析をお知らせします。  
今回の調査で測れるのは学力の一部であり、このことを踏まえて、単に数値のみで序列化された過度の競争につながることはないよう留意をお願いします。

### 1 調査の概要

#### (1) 目的

全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の教育施策の充実と学校における指導の一層の改善に資する。

#### (2) 調査日 平成 28 年 12 月 13 日（火）、14 日（水）

#### (3) 実施対象学年及び実施教科等

小学校 3・4 年生：国語・算数

小学校 5・6 年生：国語・社会・算数・理科

中学校 1・2 年生：国語・社会・数学・理科・英語

※ 全対象学年に、「生活・学習意識に関する調査」を実施

#### (4) 用語説明

○「平均正答率」 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）を県または市町村単位で平均した値。

### 2 島根県・浜田市全体の平均正答率

		国語	社会	算数・数学	理科	英語
小 3	県平均正答率	50.1	/	69.8	/	/
	市平均正答率	50.0		71.8		
	市－県	-0.1		2.0		
小 4	県平均正答率	55.8	/	78.6	/	/
	市平均正答率	54.3		76.9		
	市－県	-1.5		-1.7		
小 5	県平均正答率	55.6	51.1	64.3	57.3	/
	市平均正答率	57.4	52.9	65.8	58.3	
	市－県	1.8	1.8	1.5	1.0	
小 6	県平均正答率	62.2	59.6	68.1	58.2	/
	市平均正答率	58.4	56.3	64.1	54.4	
	市－県	-3.8	-3.3	-4.0	-3.8	
中 1	県平均正答率	54.4	47.0	56.6	54.8	46.4
	市平均正答率	54.2	45.0	51.1	51.6	45.6
	市－県	-0.2	-2.0	-5.5	-3.2	-0.8
中 2	県平均正答率	57.2	41.6	48.8	41.7	52.0
	市平均正答率	56.3	39.5	47.3	39.1	51.9
	市－県	-0.9	-2.1	-1.5	-2.6	-0.1

### 3 各教科の状況

#### (1) 教科の全体的な状況について

- ・小学校3年の算数、小学校5年の国語、社会、算数、理科が県平均を上回った。
- ・算数・数学について、小学校6年、中学校1年は本調査において、3pt以上県平均を下回っており課題である。
- ・小学校6年生については、全ての教科で、3pt以上下回っており、課題が大きい。
- ・中学校2年の数学は平均を下回っているものの、経年比較では、昨年度よりも2pt近く正答率が上がっており改善がみられる。
- ・小学校6年において、4月の全国調査と12月の県調査での浜田市と島根県の平均正答率の推移を見ると、国語、算数ともに差が広がっており、特に算数が差が大きく課題である。

#### <小学校6年生におけるH28年度全国及び県学力調査の平均正答率の差>

教科	項目	全国学力調査 (4月)	県学力調査 (12月)
国語	県平均正答率	65.9	62.2
	市平均正答率	62.6	58.4
	差(市-県)	-3.3	-3.8
算数	県平均正答率	61.5	68.1
	市平均正答率	58.4	64.1
	差(市-県)	-3.1	-4.0

#### (2) 各教科の結果からみられる成果(○)と課題(◆)

##### <国語>

- 漢字の読み書きについては、小中学校とも概ね定着している。
- 話す・聞くについては小中学校とも、概ね定着している。
- ◆ 小学校においてローマ字の書きが、県を大きく下回っており課題である。
- ◆ 小学校、中学校とも「書く」については課題である。

##### <社会>

- 小学校5年、中学校2年の「日本の国土や自然」「地理」に関わる問題について、理解が進んでいる。
- ◆ 「知識」に関わる問題と比較して、「活用」に関わる問題が、小学校、中学校ともに低く課題がみられる。
- ◆ 複数の資料から必要な情報を読み取ることに課題がある。

##### <算数・数学>

- 小学校3,4,5年については、基礎的な計算問題については概ね定着が図られている。
- 中学校2年生は、県平均よりも低いものの中学校1年時の結果と比較すると、2pt以上伸びており改善がみられる。
- ◆ 小学校6年、中学校1年については、基礎的な計算の理解について課題がある。
- ◆ 領域別にみると小学校は「量と測定」領域に、中学校は「数と式」領域に課題がみられる。

##### <理科>

- 小学校5年「観察・実験の技能」についての問題の「アルコールランプの使い方、顕微鏡の使い方」については改善傾向がみられる。

- ◆ 小学校 6 年「ろうとの使い方、星座早見表の使い方」については課題がみられる。
- ◆ 観点別にみると「知識・理解」よりも「思考・表現」等の活用に課題がみられる。

#### <英語>

- 中学校 1 年、2 年とも概ね県平均である。
- 中学校 2 年は、昨年度中学校 1 年時の結果と比較すると、0.4pt 高く、少しずつではあるが改善傾向がみられる。
- ◆ 領域別にみると、両学年とも「書くこと」の正答率が低い。
- ◆ リスニング問題や読解問題において、聞いたり読んだりした内容をもとに思考し、判断して英文を書くことに課題がみられる。

## 4 生活・学習に関する意識調査の状況

### (1) 授業改善に関わること

- ・「授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」については、小学校 3, 4, 5 年については「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の割合が県よりも多いが、小学校 6 年、中学校 1 年、2 年と学年が進むにつれて割合が下がり、県よりも低くなっていることは課題である。

### (2) 家庭学習について

- ・「1 日に 1 時間以上家庭学習をする児童生徒の割合」は、小学校 3 年生、小学校 5 年生が県の割合を上回っている。
- ・小学校 5 年生は 68.6%で割合が最も高く、県の 59%を大きく上回っているが、中学校 1 年生が 57%、中学校 2 年生が 49.5%と学年を追うごとに、家庭学習の時間が少なくなっているのは課題である。

### (3) メディアについて

- ・「1 日に 2 時間以上 TV やビデオ、DVD を視聴する児童生徒の割合」「1 日に 2 時間以上ゲーム（TV ゲーム、PC ゲーム、携帯やスマートフォンのゲームを含む）をする児童生徒の割合」「1 日に 2 時間以上携帯電話やスマートフォンを利用する（ゲームを除く）児童生徒の割合」は、全ての項目、全ての学年において県の割合よりも多く、課題である。
- ・4 時間以上メディアに接触している児童生徒の割合も、全ての学年で 1 割を超えており、メディアとの適正な関わり方についての取組については継続して取り組んでいくことが必要である。

### (4) 読書について

- ・「1 日に 30 分以上読書する児童生徒の割合」は全学年とも県と同程度であるが、小学校 3, 4 年生、中学校 1, 2 年生は県の結果を上回っており、学校図書館活用の取組の成果が表れている。
- ・「読書が好きだ」に当てはまる、どちらかといえば当てはまるの割合は、全ての学年で県の割合とほぼ同程度で、小学校 3, 4 年生と、中学校 2 年生については 70%を越えており、本に親しんでいる様子が伺われる。

## 5 今後の対応

- (1) 全ての小中学校への学校訪問指導を実施する。各学校での分析を元にした、各校の対応の説明を受け、各学校の組織的な取組への助言や支援を行う。
- (2) 家庭学習の時間や内容と、学力への関連性の高さを裏付ける結果となっており、今後も、「家庭学習の充実」「メディアへの適切な関わり」について継続して取り組む。
- (3) 「授業方法の改善」については、学力の相関が高いことが明らかになっている。今後も新たな課題に対応できるよう、教師の授業力向上に向けた取組を継続する。